



デマンド型交通システム

渡辺 ふさ子

問 高齢者に優しく便利で効率的な交通方式である、デマンド型交通システムについて、見解を伺う。

市民経済部長 県内の導入例では、予約のある停車地からの経由で需要をカバーできる効率的な部分がある一方で、事前登録や予約センターの設置が必要です。また、利用者の乗降時の状況で到着時間も大きく変化することが欠点と指摘されています。

問 公共交通機関を利用して外出することが困難な方に対し、買い物や病院などの移動支援が必要と考えるがどうか。

健康福祉部長 高齢者にとって、安心・安全な生活を送ることができ、環境の整備は必要であると考えます。

問 足や目などに支障のある方、バス停の遠い方などから市民バスが利用しにくい、利用できないとの声が寄せられている。デマンド型交通システムの導入を検討してはどうか。

市民経済部長 市民バスの利用見直しを行い、公共交通の充実を図りたいと思います。新たにデマ

ンド交通システムを導入することは今のところ考えていません。

交通権を保障する観点で

問 この問題は人権尊重の原則、住民参加と地方自治の原則を（うたう）憲法に基づき、住民の交通権を保障する観点が必要ではないか。住民の交通権保障で高齢者が気軽に外出し健康増進になれば、自治体が負担する医療費も少なくなる。住民と連携し、話し合いの場を持つなどの考えはないのか。

市長 市民バスの見直しや福祉タクシーなど、いろいろ調査する中で、具体的にどういったサービスを充実させていけるか検討したいと思います。市民の方々や専門の方のご意見をいただきながら、平成28年度中に策定したいと考えます。

◎その他の一般質問

- 被災者対策
- 子ども医療費助成事業



学校給食

酒井 信幸

問 食育として、季節感のある献立が大切だと思いが、季節に応じた食材を使用した献立になっているのか。

学校教育課長 食育の観点から、豊かな食文化を実感してもらうために、旬の野菜、果物、魚などを利用して献立を作成しています。

問 使用する食材の値段や在庫について、栄養士と業者間で、確認を取りながら行っているのか。

学校教育課長 野菜の場合は天候に左右されるため別な野菜に置き換える場合には、業者から情報を得ており、連絡を密にして献立を作成しています。

給食のアレルギー対策は

問 学校給食の食物アレルギー対策について、4月からどのように変わるのか。

教育長 市全体で4000人の小中学生がいますが、そのうち170人を超える子どもたちがアレルギーを持っています。場合によっては命に関わることもあり、文部科学省の指示に沿って対応したいと思っています。

学校教育課長 安心・安全な学校給食を提供するために、食物アレルギーに対する代替食は提供せず除去食のみ提供します。

問 代替食を提供しなくなることは、食物アレルギーを持つ子どもへの保護者に対し説明し、理解が得られているのか。

学校教育課長 昨年10月に教育長名で小中学校の全保護者に文書で通知しています。平成28年度に入学する保護者に対しては、就学児健康診断の案内とともに文書で周知しています。



宮城県知事賞 岩沼市立岩沼北中学校